

日米サイバーセキュリティ意識調査



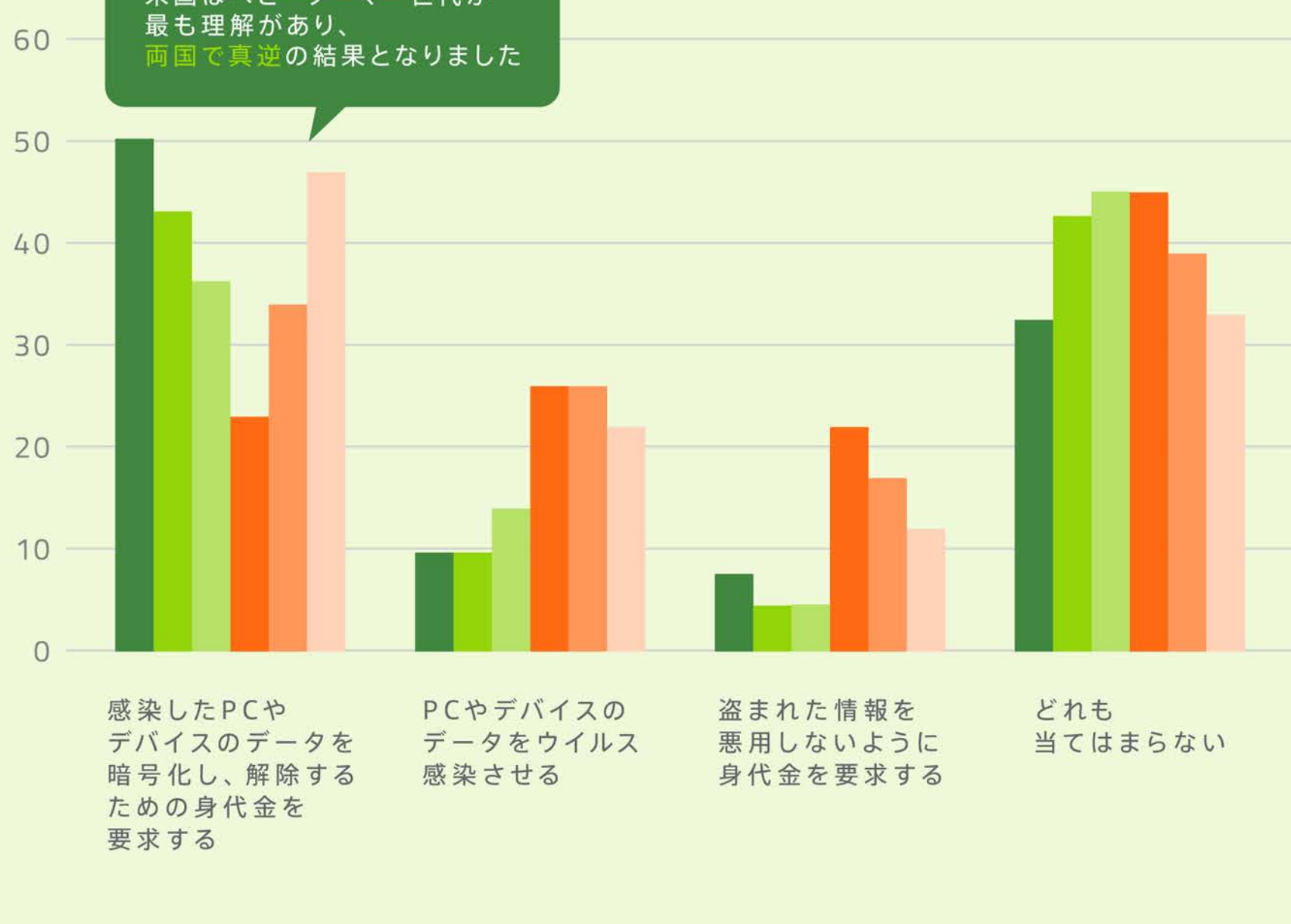
調査対象

- Z世代 [18-24]
- ミレニアル世代 [25-34]
- ベビーブーマー世代 [55-65+]

ウェブルート株式会社では日本1800名、米国2000名のZ世代(18-24)、ミレニアル世代(25-34)、ベビーブーマー世代(55-65+)を対象に、日米のサイバーセキュリティ意識についての調査を実施し、得られた調査内容をインフォグラフィックでまとめました。

ランサムウェアへの理解は日米の世代別で見ると、真逆の結果に

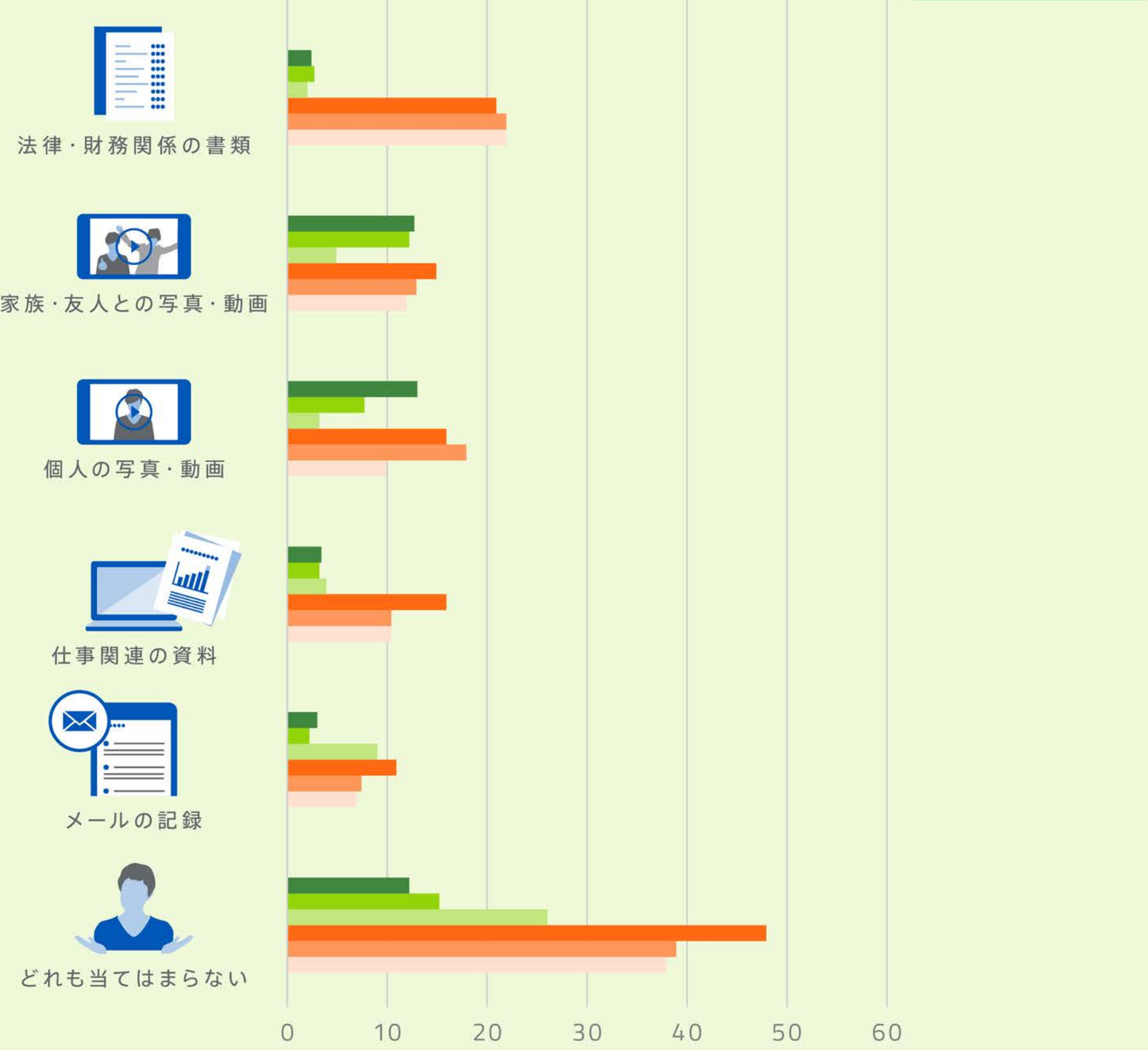
Q1 ランサムウェアについて最も適当なものはどれですか？



日本はZ世代が、米国はベビーブーマー世代が最も理解があり、両面で真逆の結果となりました

全体的に個人情報の流出を危惧特に日本の数値が高い結果に

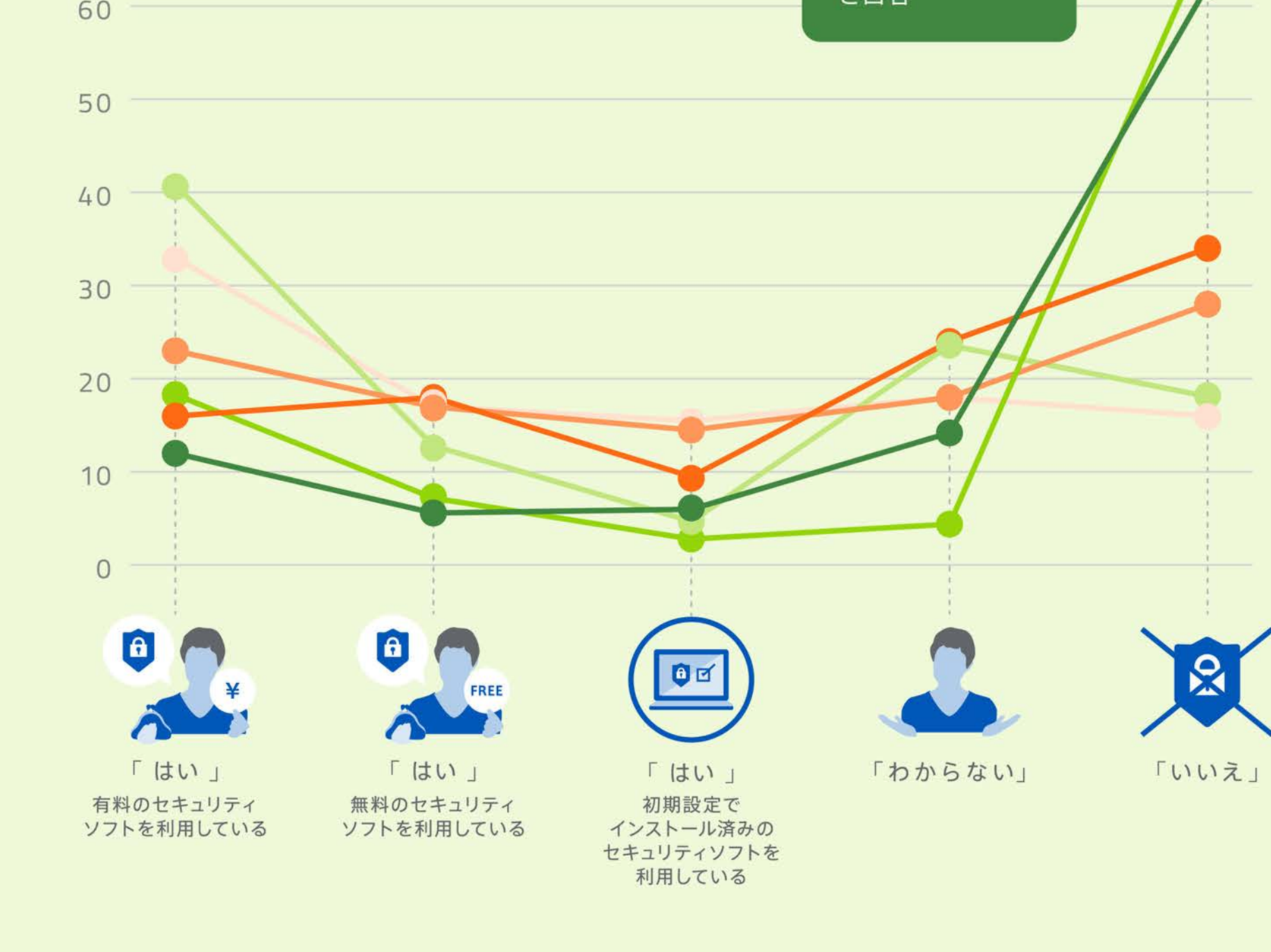
Q2 デバイスがハッキングされた場合、最も心配されるデータはどれですか？



日本は米国と比べどの世代においても数値が高い結果に

日本の若年層の約7割はセキュリティアプリを使用していない

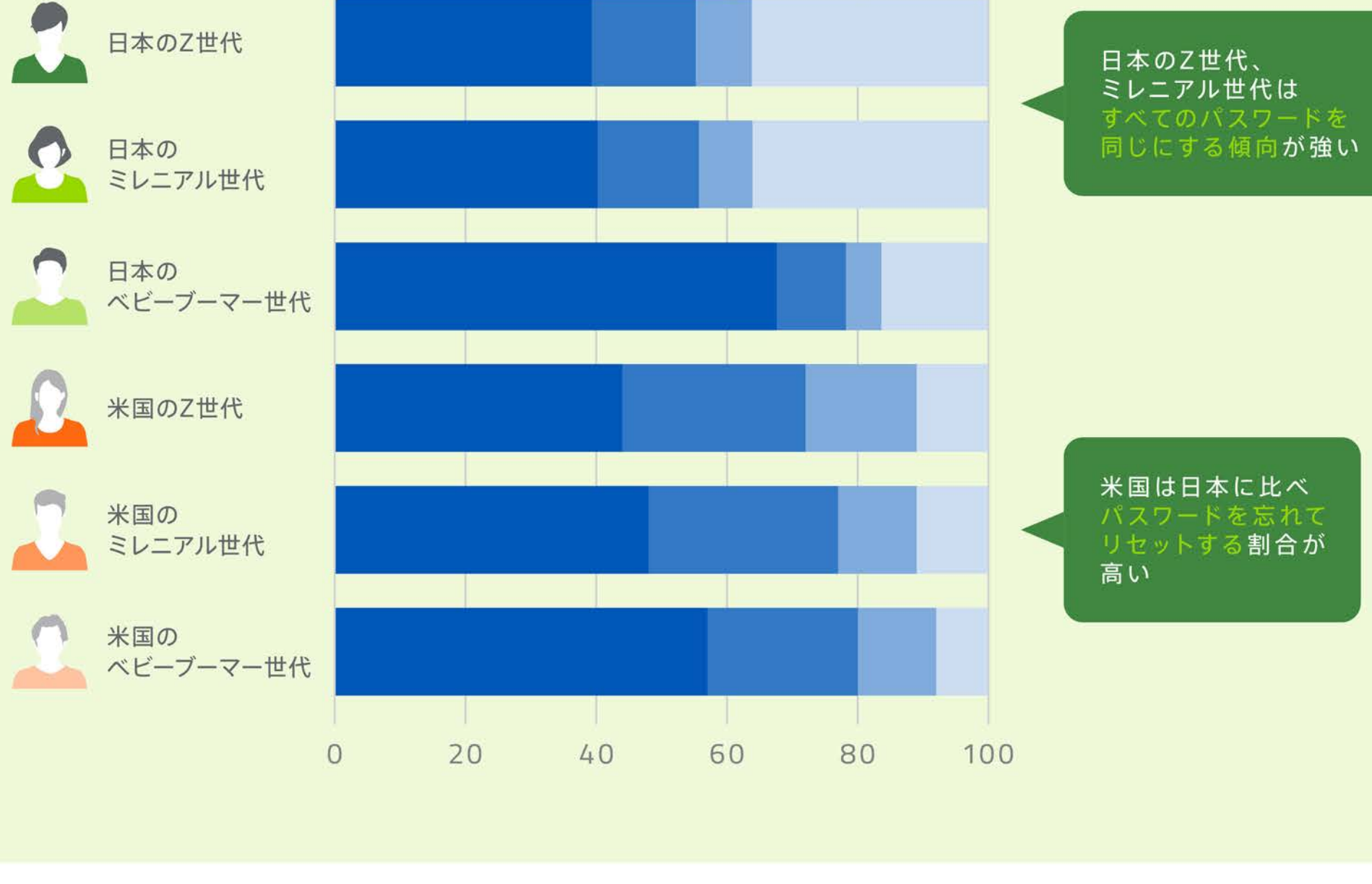
Q3 あなたはプライベート用端末(PC、スマートフォン、タブレット)にセキュリティソフトを利用していますか？



日本の若年層の約7割が「いいえ」と回答

日本はすべてのパスワードを同一に 米国は異なるものを設定するが忘れがち

Q4 あなたは普段どのようにパスワードを管理していますか？



日本のZ世代、ミレニアル世代はすべてのパスワードを同じにする傾向が強い

米国は日本に比べパスワードを忘れてリセットする割合が高い

今回の調査では日本は米国に比べ、ランサムウェアに関する知識はあるが、セキュリティソフトで対策できている割合は少ないことがわかりました。

サイバーセキュリティ知識を持つだけでなく、日常のセキュリティソフト対策を実行するのも重要です。サイバー脅威は日々変化し続け、多様な手口が出現してきているため、きちんと対策を行って脅威からご自身を守りましょう。

ウェブルートが提供する脅威プロテクションの詳細はこちら



<https://www.webroot.com/jp/ja/home>